「ウェルビーイングな都市」を目指して
―有識者が贈る言葉―

当所では、2019年12月に創立140周年を迎えたことを記念し、10年後の2030年に向けた「まちづくり提言」を作成しました。とりまとめにあたっては、当所がまちづくりについて長年提言してきた内容や経緯を踏まえつつ、各界、各世代の声に耳を傾けてきました。この誌面では、岡山が「日本一住みたいまち」になることを願う有識者の声をご紹介いたします。

岩淵　泰 氏

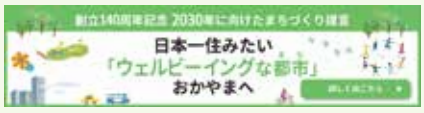
いわぶち・やすし
国立大学法人 岡山大学 地域総合研究センター（AGORA）副センター長・准教授
博士（公共政策）。専門は、政治学（参加民主主義）。フランス・ボルドー政治学院（2006年～2010年）、カリフォルニア大学バークレー校都市地域開発研究客員研究員を経て、岡山大学（2011年～）。西川緑道公園を拠点に岡山における持続可能な社会を研究している。

まちづくり談義に花を咲かせよう

人口減少社会で都市機能を維持するには、どこよりも住みやすいまちを創り、人の交流を増やしていくことだ。そのキーワードは、居心地の良い空間とアクセスだ。そして、まちづくりを支える市民、企業、行政、諸団体の協働だ。

２０３０年に向け、岡山らしさとは何か。一つ目は、水と緑を活かすグリーンインフラ、二つ目は、健康的に人々が歩くコンパクトシティ、三つ目は、都市と農村の恵みが循環する共生社会だ。願わくは、岡山での生活そのものが、地球環境への負担を軽減するライフスタイルとなり、注目されて欲しい。

岡山のまちづくりは、コミュニティ・サイクルの導入、大型モールの進出、県庁通り・西川緑道公園のまちづくり、新市庁舎や岡山芸術創造劇場の建設、都心人口の増加、ＥＳＤやＳＤＧｓの推進など変化に富んでいる。今求められているのは、岡山の未来を私たち自身のビジョンから方向づけることだ。岡山商工会議所の特徴には、「人と緑の都心１㎞スクエア構想（１９９４年）」に代表されるように、まちづくりの理念を掲げ、各種提言を続けてきたことが挙げられる。しかし、創立１４０周年記念のまちづくり提言が、岡山企業・経済界の声に留まっていてはもったいない。岡山まちづくりの基盤として、広く議論の対象になって欲しいと、筆者は考えている。

アメリカ・ポートランドのまちづくり先生であるスティーブ・ジョンソン氏が、岡山を訪れた時に、まちづくりの秘訣を残してくれた。「ワクワクとドキドキを忘れないこと。岡山のシークレットを探していくこと。そして、他のまちと違うまちにいつ進もうとしたのかを確認すること」だ。私はこの言葉が大好きだ。なぜなら、「まちづくりを学ぶには、岡山に行こう！」と世界中の若者が集まるのが、私の夢だからだ。そのような素材が岡山には溢れている。もしくは、気づいていないものも多いだろう。提言書をきっかけに、まちづくり談義に花が咲く。そのようなまちは、素敵なまちだ。一歩一歩、実現したい。

当所では、これからの10年、おかやまが心身ともに健康で豊かさと幸せを実感できる、ウェルビーイングな都市となることを目指し、充実したICTデジタルインフラの整備や、緑化とカーボンニュートラルにつながるグリーンインフラの整備によって、ハイブリッドタウン岡山を創造していきたいと考えています。本提言は、当所ホームページに「本編」「資料編」として全文掲載しております 。ぜひご覧ください。